

あした 未来へつなぐ

【安全への取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里紗

模擬体験装置が並ぶ苗穂工場の『安全道場』。怖さを体感し、作業現場に潜む危険を再認識！

各

種鉄道車両の製造、改造、整備などの業務を一手に引き受け、鉄道車両の技術開発を担う苗穂工場では、作業現場に潜む危険の再確認と、特に若手社員への危険に対する意識づけを目的に、平成二十一年十月に『安全道場』を開設しました。

工場内につくられたその施設には、作業現場で起こりうる事象を模擬体験できる数々の装置が並び、保護メガネやヘルメット、安全靴など仕事で使用する安全保護具が展示されています。

装置はすべて各科の代表で構成されたプロジェクトを中心に検討され、製作、設置とも社員によって行われました。苗穂工場設備保全科長の齋藤豊さんは「各科の社員自らが装置づくりに携わったこと自体が、安全への意識向上につながったと自負しています」と話しています。



『安全道場』に設置された装置はすべて社員による手づくり。危険を模擬体験すれば、人間は先入観や錯覚にいかに左右されるかがよくわかる。

装置には、回転物に指が巻き込まれた状態を

体感する「傷だらけのローラ」、重さ約十六キログラムの制輪子が落下したときの衝撃を体感する「落下制1号」、過電流によって電線を焼損させ、電気の怖さを体感する「ファイヤー」など、ユニークな名前のものも多く、いずれも製作者自身によって命名されました。装置の製作にあたっては、事故の怖さを実感できなければ意味がないため、衝撃や痛みを加減を調整するところに最も苦労したそうです。努力の甲斐あって、音や衝撃に加え、臭いまで再現したりアルなものもあります。

現在、『安全道場』には新たに製作された五台を含め、計二十台の装置が設置されています。これまでにJR他社が視察に訪れたほか、函館支社でも開設を計画するなど、反響の大きさは想像以上。苗穂工場で働く約三百四十名の社員を対象にした安全教育だけでなく、JR北海道やグループ会社の新入社員研修・教育にも『安全道場』の模擬体験や見学が取り入れられるなど、各種教育に活用されています。

①



ローラーに手を巻き込まれる装置「傷だらけのローラ」。



16kgの制輪子を実際に落下させる装置「落下制1号」。

※制輪子：自動車のブレーキパッドに相当する部品。